

## 実行委員会からの主催者挨拶

# 新しい世紀を協同の息吹あ

皆さん、「いま『協同』を拓く2000全国集会」にご参加いただきまして、ありがとうございます。いよいよ「新しい協同」への新たな歩みの秋がまいりました。

思い起こせば、私たちの「協同集会」は、第1回から7回までは「いま『協同』を問う」というテーマを掲げ、いわば私たちの仲間内で、「協同はどうあるべきか」、その方向を探ってきました。しかし、本集会は、「いま『協同』を拓く」と大胆に私たちの外に向けて、「協同」が私たちの仲間内をはるかに越えた、もっとずっと広い範囲の国民的課題であることを明らかにし、そうすることで日本の社会における「具体的で実践的な協同のあり方」をその内実から掘り起こすことを謳いあげています。

なぜ、「問う」から「拓く」に変わったのか。それは、一言で言えば、「時代の要請」です。市場経済のグローバル化が一層進行するであろう21世紀を目前にして、私たちは、自らの「労働と生活の質」を高めるために、新しくかつ持続可能なイニシアティブを果敢にして私たちのものとしていかなければなりません。というのは、市場経済のグローバル化は、私たちがそのなすがままにしておくならば、「勝者がすべての市場を手に入れる」恐ろしいほどの状況を世界中に見せつけることになり、

その結果、ありとあらゆる格差や溝がつけられてしまうからです。国家と国家の間の格差、地域と地域の間の格差、社会と社会の間の格差、そして個人間の格差が当たり前のようになってきます。このような格差や溝は、私たち個々人の「労働と生活の質」を悪化させしますが、私たちに決して良い結果をもたらさしはしません。

では、私たちはどうすれば良いのか。その答えの一つは明確です。私たちは「協同する」のです。しかも、コミュニティ・地域社会のニーズに応え、それを実現して、コミュニティ・地域社会の質を高めていくために「協同する」のです。コミュニティ・地域社会に根ざした「協同」こそが、グローバル化される市場経済に対峙する「対抗軸」になるのです。私たちが創るこの「対抗軸」が私たちの「労働と生活の場」であるコミュニティ・地域社会を豊かにし、私たちも人間的に豊かになるのです。

このような中身をもつ「対抗軸」としての「協同」の中心的なコンセプトは、社会的に有用で、社会的目的を遂行すると同時に経済的利益をもたらす「協同労働」です。本日の午前中、「協同労働の協同組合」の法制化をめざす市民会議の設立総会が成功裡のうちに終了しました。私たちは、本日の「いま『協同』

# ふれる社会に

中川 雄一郎（明治大学・協同総合研究所）



を拓く」全国集会を大きなステップにして、言葉の真の意味で「対抗軸」を支えることになる「協同労働の協同組合法」の法制化を実現化するために、さらに前進していきたいと思ひます。

私たちは、今日と明日の2日間にわたって様々な議論や討論を行ないますが、私たちのこの集会を一層盛り上げていただくために、海外から素晴らしい3人のゲスト・スピーカーをお迎えしました。ジェイムス・ロバートソンさん、アリソン・プリチャードさん、それにダレグ・マクラウド教授です。ロバートソンご夫妻さんにつきましては後ほど石見先生の方からご紹介がありますので、マクラウド教授につきましては私から簡単にご紹介させていただきます。

マクラウド教授はケープ・ブレトン大学の哲学教授であり、また同時にビジネス論・企業論に基づいた協同組合企業論の研究もなされております。さらにまたマクラウド教授は、カナダのコミュニティ・地域社会やメキシコ・ユカタンのコミュニティ・地域社会の社会的、文化的発展を目的とする「コミュニティ経済開発」の実践的指導もなされています。文字通り「理論と実践」を地で行かれています。先般私は、マクラウド教授の著書を翻訳し『協同組合企業とコミュニティ：モン

ドラゴンから世界へ』（日本経済評論社）というタイトルで出版しました。その書物からホセ・マリア・アリスメンディアリエタの主張の一節を引用しまして、挨拶を終わらせていただきます。

『協同組合は、協同組合をして、その組合員を満足させるだけでなく、その組織を通じて社会的な機能を果たすべきコミュニティ的要素をもっている。第1に、協同組合はわれわれだけの財産ではない、とわれわれは考えているし、それ故にまた、われわれはただ協同組合を利用しているにすぎないのであるから、われわれは、協同組合をわれわれがどのように利用するのかを説明しなければならないのである。そうであれば、もっぱら組合員を満足させるにはどうするかを考えるのではなく、社会がわれわれを信頼して託してきた使命をもっと完全に果たしていくためにはどうすればよいのかを考えるべきである。』

今日と明日の2日間にわたる本集会が質の高い議論となることを期待しております。皆様のご協力を心からお願いいたします。